

Harmony



公益社団法人郡山青年会議所2021年度スローガン

共奏

～共に創ろう笑顔と活気溢れる郡山の未来を～



新春のご挨拶

二〇二二年度 第六十一代理事長

柳沼 勝恵

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、新年の幕開けを健やかに迎えることと、心よりお慶び申し上げます。

平素は私も公益社団法人郡山青年会議所に対しまして格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、大きな社会変化の年となり、私たちの活動も大きな影響を受ける年となりました。そのようななかで開催させていただきました「32万人の合唱プロジェクト」、「こおりやまサイクルクエスト」をはじめとした各事業では、コロナ禍の大変な状況にも関わらず皆様より多大なるご支援・ご協力を賜りましたことに、現役会員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

本年は、「共奏(きょうそう)」共に創ろう笑顔と活気溢れる郡山の未来を」のスローガンのもと、ニューノーマルといわれる時代のなかで、社会や人々の価値観の変化に柔軟に対応した運動を展開してまいります。

また本年は、公益社団法人郡山青年会議所創立六十年を迎える記念すべき年でもあります。これまで運動の礎を築いてこられた先輩方や、運動にご協力いただいたすべての皆様に感謝の想いを伝えさせていただきますとともに、郡山の未来を見据えた明確なビジョンのもと公益社団法人郡山青年会議所の運動を未来永劫に繋げて参ります。どうか皆様方の更なるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様方にとりまして、希望多き一年となりますようご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

大会スローガン

未来を切り拓け！

～開拓者精神で共に奏でよう！東北六重奏～

スローガン考案理由

郡山市の発展は、明治時代に実施された数々の軌跡により成功を成し遂げた国直轄の農業水利事業第一号である「安積開拓・安積疎水開き」の寄与が大きく、それが現在の郡山市の礎となり、脈々と市民に受け継がれる開拓者精神がまちの原動力となっております。また、市内では活発な音楽活動が行われ、音楽都市こと「楽都」として知られており、音楽によるまちの問題解決や官民協働で音楽によるまちづくりを推進しております。東北地区協議会の運動を発信する最大の場である東北青年フォーラムでは、現状に満足することなく、未来に夢を描き、希望を持ち何事にも挑戦する強い意志と数々の苦難を乗り越えてきた先人達の開拓者精神を東北中に伝播し、東北六県の仲間と手を携え、共鳴を起し、新たな価値を共創したいとの想いから「東北六重奏」と表現させていただきます。このスローガンに示しております。

東北青年フォーラム in 郡山 スローガン並びにシンボルマーク決定!!



2021
東北青年フォーラム in 郡山



共奏

共に創る笑顔と活気溢れる
郡山の未来を

公益社団法人郡山青年会議所
二〇二一年度 理事長所信
第六十二代理事長 柳沼 勝恵

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、地域のあらゆる産業における経済的損失や子どもたちを取り巻く環境の変化、ウイルスと共生していくための生活様式の変化など、私たちの日常は一変しました。経済、社会活動は徐々に動き出しているものの、未だ多くの不確実性を残し、依然として私たちの生活に甚大な影響を与えています。

一九六一年全国で一九七番目の会員会議所として郡山青年会議所は誕生しました。創立から六十周年を迎える今日に至るまで、連綿と受け継がれてきた不変の想い「明るい豊かな社会の実現」を目指し、人々の価値観が絶えず変化するなかで求められる「明るい豊かな社会」の姿を的確に捉え、その時代毎の問題や困難を乗り越えることで郡山の発展を支えてきました。一つの困難を乗り越えるたびに新しい何かを学び変化する。その積み重ねが歴史となり不変の想いと今日まで受け継がれています。創立より続く不変の想いを受け継ぐ「覚悟」と、変化を恐れず、明るい未来を創造するために変える「勇氣」。六十周年という大きな節目を迎え、さらにはこれまでの価値観が変容し、新しい時代を迎えざるを得ない今だからこそ、これからの五年先を見据えた明確なビジョンのもと「覚悟」と「勇氣」を持って歩み続けなければなりません。

【組織の未来を創造しよう】

二〇二一年、我々の運動はピーク時の半分の人数でスタートします。人口減少や時代の変遷、価値観の多様化など、会員減少の理由を挙げればきりがありません。しかしこのような時代のなかでも、会員数を伸ばし続ける青年会議所もあるのです。会員拡大はJC運動の本質であるといわれます。より多くの同志を集めるためには、会員一人ひとりが会員拡大に対する当事者意識を持ち、自らが発

する説得力ある言葉によって、相手の心を動かさなければなりません。積極的にJC運動に取り組み、その実体験をもって組織の魅力や有用性を候補者に伝えることで、自らの成長と会員拡大につなげます。

また、さまざまなシーンで多様性が求められる現代において、郡山でも多くの女性や二十代の若者が各分野で強いリーダーシップを発揮し活躍しています。持続可能な組織の未来を創造するためには、さまざまな視点や観点をもちた女性や若い世代の活躍が不可欠です。年齢や職業、性別にかかわらず会員一人ひとりが自らの個性と能力を発揮すること、またその運動が地域に伝播されること、まだ見ぬ同志への共感を生み、持続可能な組織の未来を創造することができま

【共感と信頼の輪を広めよう】

我々のすべての運動には目的があります。その運動に込められた想いが市民にどれだけ浸透し共感を得られるかによって目的に対する効果も変わります。近年のICTの急速な進化は、SNSをはじめとした様々な情報発信ツールを生み出し、誰もが簡単に自分の想いや体験に共感を求めることができるようになりました。人に想いを伝える際、いつ、だれに、どのように伝えるかで同じ言葉でも伝わり方が変わるように、我々の想いを発信する際も、対象となる世代や目的などを捉え最適なツールや方法を選択しなければ、相手に伝わることなく溢れる情報のなかに埋もれてしま

まいます。日々進化し続ける情報技術と人々の興味や関心を見極め、タイムリーに情報を発信することで我々の運動が市民に浸透し共感の輪を広めることができるのです。発信者の重要な担い手として、つながりの維持管理があります。市民からさらなる共感と信頼を得るためには郡山青年会議所が六十年という長い歴史のなかで培った事業や各関係機関、団体とのつながりをより強固なものとする必要があります。またICTの進化により私たちの日常が便利になる一方で、利用する側のモラルやリスク管理も大きな社会問題となつてい

めま

【笑顔と活気溢れるまちの創造】

新型コロナウイルス感染症は私たちのまちなかに、地域の活力となるはずの行事やイベントは中止、規模縮小となり、様々な文化の披露、承継の機会も失われてしまいました。郡山が誇る音楽の文化はまちづくりの原動力となり、郡山の発展と復興を支えてきました。二〇一八年には音楽都市宣言から十周年を迎え、市民による音楽活動もより活発となり、現在では私たちの生活に欠かせない郡山の宝となつてい

ます。音楽には世代やジャンル、文化を超えて人と人を繋ぐ無限の可能性があります。ウイルスとの共生という新しい時代のなかで、笑顔と活気溢れるまちを再生するためには、音楽が持つ無限の可能性を最大限に活用し、新しい時代に即した運動を展開していかなければなりません。郡山の宝である音楽が文化、芸術としてだけでなく、経済や地域社会のあらゆるものとの架け橋となることで、地域に活力を生み、笑顔と活気溢れる郡山の創造へとつなげま

【未来への希望を育む】

二〇二一年は、東日本大震災から十年という大きな節目を迎えます。その間も多くの自然災害に見舞われ、全国的に見れば、数十年、数百年に一度といわれる大規模の災害がかわちを変えて毎年のように私たちに襲いかかっています。一つひとつの困難を乗り越える度に私たちの日常は子どもたちでさえ不安を感じることの変化は子どもたちに大きなストレスを与え続けています。子どもは自ら、自分が育つ環境を選び、作り上げることができません。環境の変化に大きな影響を受ける子どもたちに、笑顔溢れる日常を提供することが私たち大人の責務なのです。ソーシャルディスタンスという言葉が定着し、人と人との物理的な距離が求められる今だからこそ、相手を感じ、思いやるこころの距離の大切さを育みます。

また私たちは様々な困難から多くのことを学びました。先人たちは困難に直面したとき、創意工夫することで解決策を見出し、時には大きな犠牲のもと、生きるための新たな日常を築き上げてきました。その繰り返しは歴史となり、今の私たちの日常があります。この歴史を子どもたちへつないでいくことで、逆境で

もその経験を糧にしなやかに対応する力であるレジリエンスを身につけることができま

【東北青年フォーラムin郡山】

二〇二一年、東北地区協議会最大の運動の発信の場である東北青年フォーラムが郡山の地で開催されます。遼々と二〇一九年、郡山青年会議所一月定時総会にて主管立候補が可決承認され、同年、能代の地で開催された東北地区協議会役員会にて主管青年会議所として承認されました。当時、東北青年フォーラム開催を決意した先輩方とともに気概と覚悟を持って踏み出した大きな一歩を、大会成功にむけ、より大きな歩みにしていかなければなりません。まずは、開催にあたり主催である公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会をはじめ、副主管を担っていたたく県内各地会員会議所のメンバー、行政各種関係機関、団体の皆様、我々の最大の理解者である郡山青年会議所OB会の方々の連携をより強固なものとする必要があります。また、東北各地より同じ志のもと多くの仲間が集う東北青年フォーラムは東北地区協議会最大の運動の発信の場であると同時に、開催地として我々の運動や郡山の魅力を東北各地に発信する最大のチャンスでもあります。東日本大震災から十年という大きな節目と、ウイルスとの共生という新たな時代のなか、最大限の有意義な効果が得られる手法を構築し、東北76LOMの仲間とあつてない未来を切り拓く大会を実現します。

【結びに】

音楽の表現の一つとして「ハーモニーを奏でる」というフレーズがあります。ハーモニーとは二つ以上の音が調和した響きという意味があり、「奏」には成し遂げるという意味があります。素晴らしいハーモニーは、一人ひとり



福島県知事
内堀 雅雄 様

新たな復興・創生のステージへ

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく十年の節目を迎えようとしております。この間、県民の皆様懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めてまいりました。

昨年は、双葉町、大熊町、富岡町の帰還困難区域の一部地域で避難指示が解除されたほか、JR常磐線の全線再開、福島ロボットテストフィールドの全面開所など、明るい話題も多くありました。

そのような中、新型コロナウイルス感染症が世界各国で急速に拡大し、私たちの生活は一変しました。

県といたしましては、引き続き、喫緊の課題である新型感染症対策はもとより、震災と原発事故からの復興・再生、令和元年東日本台風等災害からの復旧、地方創生人口減少対策などに全力で取り組んでまいります。

まず、新型感染症対策についてはウイズコロナにおける感染拡大の防止と社会経済の再生を両輪で進めていくとともに、感染者への差別や誹謗中傷の防止に力を尽くしてまいります。

次に、避難地域の復興・再生については、今年四月から第二期復興・創生期間がスタートします。引き続き、被災者の生活再建や生業の再生、廃炉・汚染水対策などの課題にしっかりと取り組んでまいります。

また、令和元年東日本台風等災害からの早期復旧に努めるとともに、災害を教訓に、命を守るための避難行動の促進を図るなど、災害に強い県づくりを進めてまいります。

さらに、人口減少対策については、子育て支援策等の充実や雇用の場の確保などに取り組むとともに、本県が持つ移住先としての魅力を積極的に発信するなど、「福島ならではの地方創生を推進してまいります」。

今年七月の東京オリンピック・パラリンピック大会においては、これまで国内外から頂いた多くの御支援に対する感謝の思いと、復興が進んでいる福島県の姿と魅力を広く発信するとともに、感染防止対策を徹底し、選手の皆様を始め、福島を訪れる多くの皆さんにとって安全安心な大会となるよう準備を進めてまいります。

ウイズコロナの状況においても、常に危機感とスピード感を持ち、最大限の効果を発揮するためには何が必要なのかを常に意識しながら、この難局を乗り越え、福島の新しい未来を形作るための挑戦を続けてまいります。今後とも、二層の御支援、御協力をお願い申し上げます、新年の御挨拶といたします。



郡山市長
品川 萬里 様

公民協奏による

「課題解決先進都市」を目指して

新年あけましておめでとうございませう。

郡山青年会議所の皆様には、清々しい令和三年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、昨年中は「気概を持って飛躍の一步を踏み出そう！一人ひとりが主役となり、新たな時代を切り拓くために」をスローガンにコロナ禍においても会員皆様方の創意工夫により各種事業を展開され、明るく豊かな地域社会づくりに積極的に取り組んでいただきましたことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

近年の自然災害の激甚化や新型コロナウイルスの感染拡大は市民生活や地域経済にも深刻な影響を与えており、SDGsの理念である「誰一人取り残さない社会」の重要性を一層深く認識しております。

また、今年東日本大震災・原発事故発生から十年目の節目を迎えます。これまでの御支援と市民の皆様御努力による復興の歩みを後世に伝え、さらなる強靱化と飛躍の糧といたしましょう。私たちの祖先・先輩方は、幾多の困難や課題に遭遇しながらも希望の汽笛を鳴らし現在の発展を築いてこられました。いまコロナ禍にいる私たちも、生きがいや希望に満ちた社会へと進化を遂げるため、市民・事業者・行政が絆を深め、自助・共助・公助それぞれ役割を果たして「協奏(コンチェルト)」し、将来に誇れる「課題解決先進都市」を築いてまいります。

柳沼勝恵新理事長をはじめ会員皆様方の御活躍を心からお祈り申し上げますとともに、本年も市政への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、新年の御挨拶といたします。



郡山商工会議所 会頭
滝田 康雄 様

「コロナに負けない！」

希望溢れる郡山実現に向けて

新年明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

郡山青年会議所の皆様には、「一人ひとりが主役となり、新たな時代を切り拓く」のスローガンに基づき、諸先輩方が築き上げた伝統を引き継がれ、コロナ禍でもオンラインを活用するなど、創意工夫を凝らした多彩な事業を展開し、地域活性化に積極的に取り組んでいただきましたことに心より御礼申し上げます。

さて、昨年は令和元年東日本台風の復旧・復興が進む中、世界中での新型コロナウイルス感染拡大により、郡山経済界にも大きな爪痕を残した一年でありました。

当商工会議所では、新しい生活様式に対応した相談会や、オンラインを活用したセミナー、屋外での新たなイベントなど、地域事業者へ寄り添った事業を展開するとともに、会員の皆さんの声を国や市などに要望を行い、実質無利子・無担保の融資制度や家賃補助の創設及び、雇用調整助成金の申請簡素化等の実現に繋げてまいりました。現状は、まだまだ健全な経営環境の改善には程遠いことから、今後とも新しい発想で、スピード感をもって会員企業の支援を進めてまいります。

郡山青年会議所の皆様におかれましては、柳沼勝恵理事長が掲げたスローガン「共奏、共に創ろう」笑顔と活気溢れる郡山の未来を「」にありませうものに、皆で協力し合いながら郡山発展に向けた活動にご期待申し上げます。

結びに、貴青年会議所六十周年、東北地区大会開催の記念すべき年を迎えるにあたり、益々のご隆盛と会員皆様方のご活躍とご多幸を祈念し、新年のご挨拶といたします。

「令和三年度定時総会」

一月四日、ホテルハマツにて、郡山青年会議所OB会、令和三年度定時総会・新年会が開催された。定時総会では、令和二年事業および決算報告の件、令和三年度事業計画および事業予算ならびに役員選任の件、(公社)郡山青年会議所活動支援協力会の件が全会一致で可決承認された。

第一号議案

令和二年事業報告承認に関する件

第二号議案

令和二年決算報告承認に関する件

監査報告

第三号議案

令和三年度事業計画承認に関する件

第四号議案

令和三年度収支予算承認に関する件

第五号議案


令和三年度役員選任に関する件

第六号議案

(公社)郡山青年会議所活動支援金協力の件

公益社団法人郡山青年会議所
二〇二二年新年式典中止のお知らせ

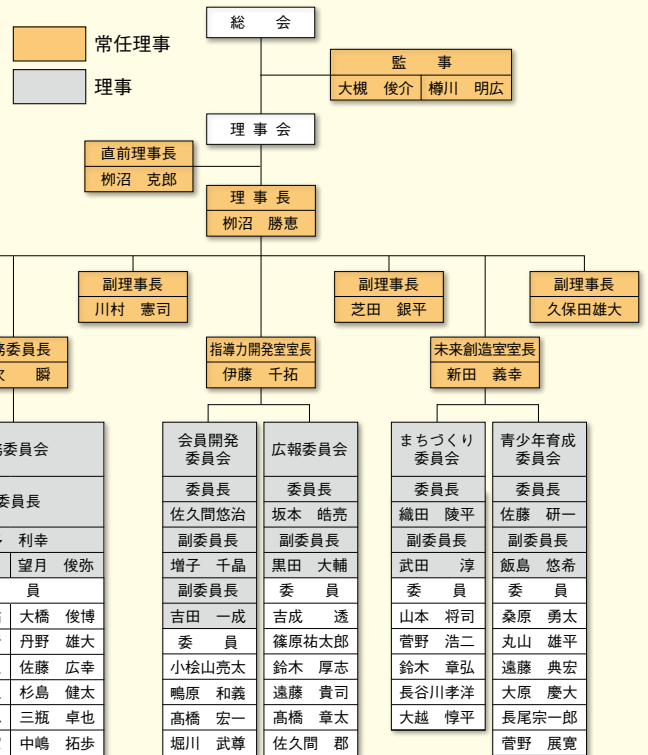
例年一月に開催しております新年式典について、新型コロナウイルスの感染症の終息が見通せないことや参加者の皆さまの健康と安全の確保を最優先に考えまして、今年度令和三年は開催を中止させていただくことになりました。なお、中止に伴い、柳沼理事長の新年のごあいさつを郡山青年会議所HPで一月二十日より動画配信する予定です。



郡山JCホームページ
QRコード

2021 組織図および出向者紹介

●2021年度、10名の新人会員を加えて60名でのスタートとなります。宜しくお願い致します。



出向者

日本青年会議所	
規則審査会議	委員 新田 義幸
アカデミー委員会	総括幹事 柳沼 克郎
アカデミー委員会	委員 菅野 展寛
JCプログラム推進委員会	委員 丸山 雄平
東北地区協議会	
規則審査室	室長 新田 義幸
福島ブロック協議会	
監査担当役員	大槻 俊介
総務委員会	委員 長尾宗一郎
ブロック大会実行委員会	幹事 江崎 健太
福島の未来創造委員会	委員 高橋 章太
アカデミー委員会	委員 阿部 圭祐
	委員 堀川 武尊



さんべい たくや
三瓶 卓也
エクスターメディカル(株)
マネージャー



さとう ひろゆき
佐藤 広幸
(株)渡 清
取締役専務執行役員 兼
経営企画室長



さとう のぶゆき
佐藤 伸行
(有)サトー 酒店
代表取締役



かさま ひろし
笠間 寛
株式会社マイノリティイノベーション
代表取締役



いとう ひろゆき
伊藤 裕之
CAFE BAR rhyme
代表



やまだ けんた
山田 健人
株式会社F sプランニング
営業



なかじま たくほ
中嶋 拓歩
ソニー生命保険(株)
ライフプランナー



たんの ゆうた
丹野 雄大
福島民友新聞社
郡山総支社



たかはし しんや
高橋 晋也
平晋建設(株)
代表取締役



すぎしま けんた
杉島 健太
杉島塗料(株)
取締役常務

新入会員紹介

NO・600号 ●発行所事務局 福島県郡山市中町5-1-17 中町スペース3F 電話024-932-2289 ●編集責任者/広報委員会委員長 坂本 皓亮 ●発行責任者/理事長 柳沼 勝恵 ●無断転載禁止